3　持続可能な自治会へ

自治会に入ってもらおう

・多くの加入が自治に不可欠

近年、自治会に加入しない人（未加入者）が多いことが、都心部を中心に大きな課題となっています。

自治会は、多くの住民の参加と合意があってはじめて、地域のことを決定したり、地域を運営したりすることが可能になります。

未加入者が増えると、住民の総意として意思決定をすることができなくなり、自治組織としての本来の機能が失われてしまいます。さらに、地域で生活する上でのルールやマナーが守られなくなったり、活動の協力者・理解者が減り、地域の安全やきれいな環境が保てなくなったりすることも考えられます。

多くの人に自治会へ加入してもらうことは、会費収入のことだけでなく、自治の下、みんなで地域をつくっていくために大変重要なことです。

・目的・活動内容を伝えよう

自治会について、少し前までは、一般に「必ず加入するものだ」という認識がありました。しかし、最近は「納得のいく理由がなければ加入しない」という人も増えています。

そのため、加入を呼びかける時は、「入るのが当然」といった高圧的な姿勢ではなく、自治会の目的や活動内容を伝えながら自治会が地域でどう役立っているかをしっかり伝えることが重要です。

例えば、防犯灯やごみステーションは自治会が管理していますし、災害対策を熱心に行っているところや、子どもや高齢者の安全安心な暮らしをサポートしている自治会も多く存在します。

自治会がこうした活動を行っていることは、日頃から活動に参加している人にとっては当たり前でも、そうでない人には意外に知られていないものです。こうした点を積極的にアピールするのも１つの方法です。



・校区みんなで連携を

未加入者の加入促進は、多くの地域に共通する課題です。

各自治会が単独で取り組むのではなく、校区内の自治会や各種団体が連携して取り組めば、より有効な働きかけができる場合もあります。

会員を増やすポイント

➢ 引っ越してきた方への歩み寄り

新しく引っ越してきた方の中には、地域のことが分からず不安で、自治会からの声かけを待っている人もいるかもしれません。
自治会の中には、会長と班長の連絡先や、ごみの出し方などを書いた挨拶状を出しているところもあるようです。
班長などが持参して「分からない点は遠慮なく聞いてください」とお話しすると、自治会への理解はもちろん、あたたかいつながりがもっと広がっていくでしょう。

➢ 防犯・防災活動のアピール

現時点で活動に関心がない方でも、安全・安心な暮らしをしたいと考えている方や、災害への備えについての関心が高い方は非常に多いものです。中でも、大きな災害時には自治会による避難誘導や助け合いが不可欠です。そうした役割を丁寧に説明しましょう。



➢ チラシを作る際のひと工夫

レイアウト

目を引くような見出しにしたり、文章を短めにする等、より多くの人の目に留まるよう、ちょっとした工夫をしてみましょう。
カラー印刷にしたり活動の様子がわかる写真を掲載するだけでも雰囲気が変わります。

連絡先

電話番号だけでなくFAX番号やEメールアドレスも明記すると、電話よりも気軽に意思表示をしやすくなりますし、留守の場合でも対応可能なのでおススメです。

➢ 国籍や文化の違う人も地域の一員

地域によっては外国籍の方や、日本国籍を取得した方、留学生も暮らしています。
同じ地域の一員ですので、相互理解や交流に努め、地域活動にも参加を呼びかけましょう。

伝える努力と工夫を

「外国語なんてしゃべれない」と最初から諦めず、伝える努力をしてみましょう。ひらがなや簡単な日本語は分かるという方もいらっしゃいますし、イラストを用いればイメージがきっと伝わります。
また、外国語を話せる方が地域にいないか、普段からアンテナを張っておくことも大切です。

このページに関連する参考様式はP55～56に掲載しています
（自治会加入案内チラシ、転入者へのあいさつ文）

3　持続可能な自治会へ

自治会に入ってもらおう（集合住宅編）

・集合住宅は活動充実の鍵

集合住宅では、多くの世帯が同じ建物で生活しています。そのため、建物の中だけでコミュニティが完結してしまうなど、周辺との関係が希薄になりがちです。

集合住宅は、戸建て世帯と同様に個別に自治会に加入しているケースや、マンション全体をひとまとまりとして加入しているケース、マンション単独で自治会をつくっているケースなど様々です。

集合住宅入居者が１つの自治会に加入するとなると、新旧住民のバランスが急変して、運営が不安定になるという声もあります。

大切なのは、負担（会費など）と受益のバランスが取れていることと、集合住宅入居者と戸建て世帯の双方が納得していることです。

この先、自治会の活性化を図る際、集合住宅入居者の地域への参加をいかに進めるかが、一つの鍵になっているといえそうです。

・意識して情報を発信しよう

集合住宅入居者の中には、子育てをしている世帯や、緊急時に助け合える人がほしいと思っている高齢者も少なくありません。

しかし、集合住宅の特性上、住んでいる人の顔が把握しづらかったり、地域で行われている活動が伝わりにくいものです。そのため、集合住宅に向けては、特に意識して情報を発信していくことが大事です。

・管理会社等との連携

自治会加入の案内を、賃貸のマンション・アパートといった集合住宅の個々の入居者に対してしようとすれば、大変な時間と労力がかかります。

建設の場合などは、多くが事業者のほうから自治会にご挨拶に来られるかと思いますが、事前に自治会から事業者へ働きかけを行っても問題ありません。

管理会社に自治会の重要性やメリットなどを説明し、入居者に加入を勧めてもらうようにするのも１つの方法です。

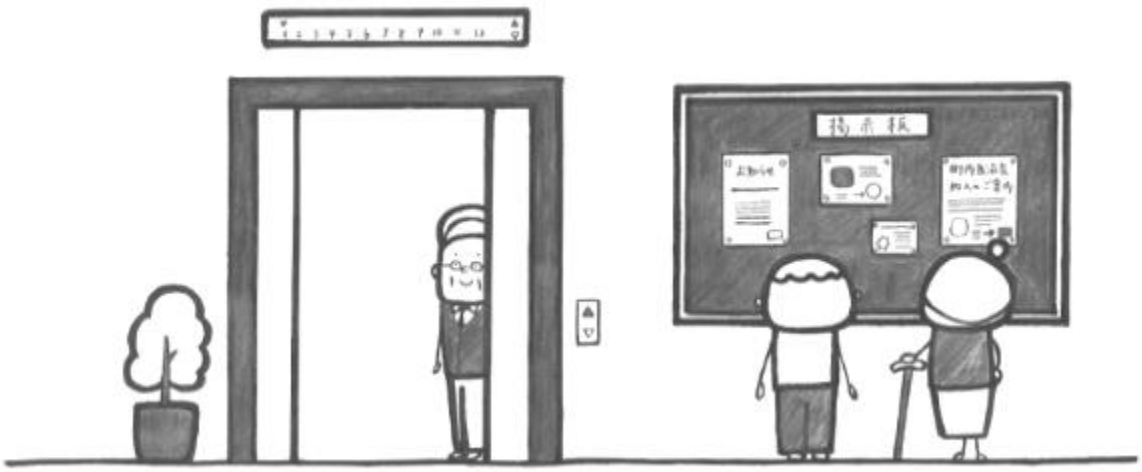


・つながりをつくる一歩

集合住宅の入居者に、安全・安心、また快適な暮らしのために行っている自治会の活動を実感してもらえるよう、積極的にPRを行っていきましょう。

多くの集合住宅では、入り口などの住民が毎日通る場所に掲示板が設置されています。管理会社などに協力を依頼し、その掲示板にチラシや加入案内などを掲示させてもらうのも効果的です。

また、子育て世代がたくさん入居している集合住宅に対しては、子ども向けの催しや親子で楽しめる行事の開催を周知し、それをきっかけに互いの顔が見える関係をつくっていく方法もあります。



3　持続可能な自治会へ

活動の参加者を増やそう

・参加者が増えれば活動も充実

「どうすれば、たくさんの人が自治会の活動に参加してくれるだろう？」イベント等を行う際に、頭を悩ませた役員の方も多くいらっしゃるかもしれません。

参加者が増えれば、活動の幅が広がり、1つ1つの活動も充実したものになります。また、たくさんの人に参加してもらい、活動の大切さや面白さを直に知ってもらえれば、“ロコミ”でさらに参加者が集まることも期待できます。

簡単なことではありませんが、住みよいまちにするために、現在の活動を振り返りながら、少しでも多くの住民を巻き込んでいくことが大切です。

・活動内容を工夫しよう

参加者を増やすためには、まず第一に、住民にとって魅力的な活動、住民が「参加したい」と思うような活動を行うことが大切です。住民が何を求め、どんなものになら参加したいと思っているのか、幅広い世代からアンケートを取ったり、会議などの場で意見を募るなどして把握するよう努めましょう。

また、参加者が減少傾向のものや、固定化しているもの、地域の実情に合わなくなったものについては、みんなで話し合って見直すことも大切です。

誰でも気軽に参加

お祭りなどのイベントは地域を元気にするとても有意義なものですが、仕事や家庭の事情、病弱などの理由で行けない住民もいます。

そこで、時間帯や家庭状況、身体状況に関わらず、誰でも参加できる企画も考えてみてはいかがでしょうか。たとえば、川柳や詩などを募集し入選者を決めるような催しは、誰でも空いた時間に考えて応募できますね。



・上手にPRを

「活動を知ってもらう」ことは、参加者を増やす第一歩です。活動内容が決まったら、しっかりとPRをしましょう。ポイントは、次のとおりです。

➢ みんなに情報を届ける

回覧板や掲示板、そのほか地域で掲示できるスペースなどを利用し、たくさんの人の目に触れるようにしましょう。幅広い世代にどうすれば情報が行き渡るか、工夫を忘れないことが大切です。

➢ 直接声かけを！

自治会活動に普段あまり関わっていない住民は、なにかきっかけがなければ参加しづらいものです。顔見知りやあいさつを交わす仲の住民に対しては、直接声をかけるのが効果的です。「あの人が誘ってくれたから・・・」というきっかけを積極的につくっていきましょう。

➢ 参加しやすくなるよう工夫

興味や関心を持っていても、初めて参加する人は、「服装は？」「何かいるものは？」「所要時間は？」「申し込み方法は？」など、分からないことがいっぱいです。だれでも不安なく参加できるよう、案内文やチラシには、日程や集合場所、開始・終了時刻、主な内容、参加費のほか、問い合わせ先も明記しておきましょう。

また、「だれでも参加できます」「初めての方、歓迎」などの言葉や、簡単な地図を入れてみると、新たに目に留めてくれる人がいるかもしれません。



・参加者には感謝を伝えよう

人に感謝されたり、ありがとうと言われると、なんだかうれしいものです。一言二言であっても、参加してくれた住民にお礼をお伝えすると「参加してよかった」「また力になれることは手伝おう」と思ってくれるのではないでしょうか。まちづくりの輪は、ちょっとした気配りで広がっていきます。

このページに関連する参考様式はP57～58に掲載しています
（自治会活動アンケート、夏祭りのチラシ）

3　持続可能な自治会へ

「みんなで」から「後継者」へ

・喜びや達成感を分かち合おう

活動を行うとき、「手をわずらわせるのは悪いから」と遠慮して、会長や役員だけでがんばってしまいがちです。しかし、負担の少ない範囲のものから、他の住民へ協力をお願いしてみることも大切です。

みんなで分担すれば、1人1人の負担が減るだけでなく、やり遂げたときの喜びや達成感も分かち合えます。「みんなの自治会」という意識にもつながっていくでしょう。

・活動を未来につなぐ

自治会の活動を未来につなげていくためには、後継者を探し育てることが重要です。

なかには、新しい人材を発掘するため、「常にあらゆる場所で情報収集している」という役員の方もおられます。特に、夏祭りなどの大きな催しは、たくさんの人が協力して動いているため、適任者をスカウトするのによい機会でしょう。

・後継者へは早めの引継ぎを

後継者が見つかったら、早めに少しずつ引継ぎを行いましょう。

交代の時期が近づいたら、後任の人も一緒に会議に出席するなど、運営や活動が滞ることがないようにすることが大切です。

また、役職ごとにファイルを作成し、日頃の活動や懸案事項の記録、参考資料などを閉じておけば、後任の人も安心です。

引継ぎ書を作ろう～だれでもできる体制づくり～

「役員になったものの、何をすればよいかわからない」という事態を避けるには、各役員の仕事をマニュアル化しておくことが一番です。特定の人しか分からないという状況を少しずつ減らし、だれが何を担当しても困らないようにしましょう。

また、夏祭りなどの催しについても、次に担当する人のために、記録を残しておきましょう。気づいた課題なども書き足しておけば、次回の運営や活動の参考になります。

記録に残しておく事柄（催しの場合）

- 準備物とその数量
- 協力者とその役割
- 作業手順や所要時間
- 反省点
- 担当者の感想や協力者・参加者の声
- 担当者名



・後継者が活動しやすい環境づくり

自治会活動は、時間的拘束など負担が大きい側面があり、後継者が見つからず役員が固定化している自治会も多く存在します。

持続可能な自治会活動を実施していくには、柔軟な役割分担や負担軽減のための体制づくりが大切です。

後継者の負担を軽減するポイント

➢ “できる範囲で活動”という共通認識

例えば「仕事と家庭が最優先　自治会はできる範囲で」といった、優先順位に関する共通認識が自治会に根付いていれば、誰もが活動しやすく、そして「役員になる＝負担になる」というイメージの変革につながるでしょう。

➢ 柔軟なスケジュール

事前に年間のスケジュールを伝え、予定が立てやすいよう配慮したり、会議日程等を参加しやすい曜日や時間に設定するなど、役員経験者がバックアップしていきましょう。

➢ 初めて役員になった方への配慮

役員になるのが初めてという方には、環境に溶け込みやすいよう思いやりをもって接するとともに、お願いする役職を「防犯」「環境」など、テーマが分かりやすいものにするなど、配慮を忘れないようにしましょう。

➢ 思いやりのある体制づくり

負担が大きい役職には副担当を数人配置するなど、サポート体制をつくりましょう。



このページに関連する参考様式はP59に掲載しています
（活動スタッフの募集案内文）

MEMO